

歴史学び島の未来醸す

西三川「学校蔵」特別授業

地理的重要性など議論

尾畑酒造(佐渡市真野新町)が廃校となった旧西三川小を借り受け、再生させた酒蔵「学校蔵」で10日、年に1度の特別授業が開かれた。「世界から佐渡を見る」などをテーマに据え、島内外から集まった約120人が有識者とともに島の未来を考えた。

特別授業は学校蔵がオー毎年開催している。元学校
ブシした2014年以来、という特徴を生かし、地域



づくりを学ぶ交流拠点に
するの狙いだ。ことしは
日本総合研究所の藻谷浩
介主席研究員とライフネッ
ト生命保険(東京)の出口
治明会長を講師として招
いた。

授業では、江戸時代に金
銀山で栄えた佐渡をたくさ
んの人が往来した歴史に触
れ、島が北前船の寄港地で
あった地理的な重要性など
を解説。出口さんが「江戸
時代は鎖国であったため、
日本全体では人の交わりが
極端に減った。だが、佐渡
では往来が途絶えず、結
果的に豊かな文化が生まれ
たのではないか」と推察
した。

聴講者も一体となり、幅広い
視点で佐渡の未来について考
えた特別授業。10日、佐渡市
西三川の学校蔵

佐渡島の未来について、
藻谷さんは「これまで米国
頼みの日本だったが、冷戦
が終わり、変化しつつある。
(米国に近い)太平洋側か
ら日本海へ、交易ルートの
価値が見直される可能性が

ある」と指摘。「日本海の
中心にある佐渡の重要性が
再び高まってくるはずだ」
と展望した。

授業は4時間以上にわた
り、島の将来について活発
な議論が交わされた。2人
の軽妙なやりとりに会場は
何度も笑いに包まれた。参
加した佐渡高校2年の田中
翔さん(16)は「地球儀を上
から見ると、広い視点
で佐渡について考えるきつ
かけになった」と語った。